

七部隊甘ホ主計中尉、同店ニ至リ、所轄四者ト諒解
金キニ拘ラズ、暫ク察ホ者、諒解ヲ得タレト称シ、右電
球及他ニ豆電球、電氣器具等合計ハ、二〇〇個ヲ
買入取リタリ（五・一五）

9. 所在確認切削油ニ付スル海軍、獲得策勅（宮城）
塩釜市所在宮城縣合同鑛詰株式會社ニ在リテハ
回裏ニ企業救済備ニ當リ各企業者ヨリ現物出資セル切削油
一八、二〇〇立退飛シ、付ルテ所轄署ニ於テ確認買月三日
供出書ヲ徴シ、同月二十日ニ至リ仙臺海軍
監督及事務所ヨリ縣廳ニ表示部宛、右切削油ハ海
軍々需、引当品ナルヲ以テ隱退飛物キ、ヨリ除外セラレ、
旨海軍々需局長ヨリ指令アリト連絡シ、来リタルモ縣ニ

於テ拒絶シタルニ改メテ右ノ内七、二〇〇立ノ配分ヲ致力化
協議會宛申込ミアリタリ（五、一四）

五 海陸輸送力ニ及ボス影響

陸海軍ニ事用貨物自動車ノ配車ト其影響（北海道）
北海道ニ於ケル本年夏軍実貫工事ハ一四ヶ所ノ多キニ上リ
貨物自動車ノ配車而女清ハ七四〇輛ニシテ目下一一〇輛
ヲ配車稼働中ナルガ之ニ對スル五月末自動車ハ八〇〇輛程
交ニ過ギズ緊急輸送ニ依ルモ七月、八月ニ至リ一〇〇〇輛以上
ヲ期待シ得ラズ一軍ニ要求シ全面的ニ容認スルハ不可能
ナルヲ以テ配車可能車輛、五五〇ヲ配車スルコト、決之定
セルガ之ガ有致力物貨、緊急輸送力ハ著シク制約セリ

ル、ニ至リ、戦力増強上、真夏、上層、セラ、ト、居、レ、リ、(四、三〇)

又、漁船並ニ、輸送船、ノ、軍、買、上、ニ、因、ル、影、響、(長崎)

海軍省兵備局ニ在リ、ハ、沿岸警備及軍需物資輸送其他連絡用トシテ、長崎縣下ニ於テ、一〇噸以上一五〇噸以下、船舶、之、上、〇、隻、ノ、買、上、計、画、ノ、下、ニ、係、員、未、給、船、船、所、在、地、ニ、於、テ、船、体、檢、査、ノ、上、買、上、ノ、実、施、中、ナル、ガ、之、ガ、対象船舶ハ、才、ニ、程、回、承、使、員、船、及、漁、船、タル、効、力、船、ヲ、之、ト、シ、テ、目、下、縣、在、籍、船、舶、全、ク、二、隻、又、ナル、モ、効、力、不、良、ノ、解体、徵、用、等、ニ、依、リ、其、対象船舶ハ、三、二、〇、〇、隻、程、交、テ、ル、ガ、之、ニ、對、シ、約、一、割、以、上、ノ、買、上、計、画、ト、ナ、リ、今、後、ノ、水、産、業、及、縣、下、生、活、必、需、物、資、輸、送、等、ニ、モ、多、大、ノ、影、響、ヲ、免、レ、ザ、ル、モ、ノ、ア、リ、(一、五、一、一、二)

3. 馬匹購入に依ル爲馬車甚多者へ、影響者（長野）
在由良橋市東海中田一三七部隊ニ於テハ四月十一日より省向
長野縣上伊那東筑摩北安曇各郡ニ於テ一三九頭ノ
馬匹ヲ買付ケタルガ内鞍馬七九頭ハ爲馬車甚多者此
有全頭數ノ六一%ニ該者スルヲ以テ其クテハ小運搬力ニ至
大影響有アリ此種影響者長弓軍購買係官ニ付テ
輸送事情ヲ悉心謀レ爲馬車甚多者此有ノ鞍馬購買
ニ付テハ函辰耕馬又ハ兼甚多者爲馬車甚多者此有ノ馬匹
ヲ以テ按配スル採申入レタルニ一應之ヲ了トシタルニ一面市
所亦馬匹係吏自ニハ官養養体格共ニ優レタル爲馬
車甚多者ノ馬匹ヲ他ニ先ンジテ購買檢査有テ交ケレタ
トスル傾向アリ注意中（四二五）

4 馬匹、冒上ゲニ付、徒影也等（長崎）

久米末師團ニ在リテハ去ル五月十日ヨリ三日間ニ互リ録
下南島末師一團ヲ馬匹ハ八三頭（内製耕馬六〇頭
頭挽馬二七八頭）ノ冒上ラおシタルガ長年耕馬六、二五ニ
頭ノ九、六〇ノ減少ニ依リ表耕進捗阻害セラレ又推
肥、減少ハ肥料難ヲ柏事スルト共ニ挽馬ニ夫秋數四五〇
頭中ヲ其ノ六〇ノカヲ別減セララルお輸送力ハ一付ニ減
退ラ未タレ之ガ補充ニ努メテ、アルモ早急ナル補充ハ困難
ナル狀況ナリ（五、三二）

5 空襲表ニ付、自轉車ノ通迫ト軍方面ノ調辨狀況

（夏知）

自轉車リヤカ、ハ録割当ノ逐年減少ニ加、過解ノ名古屋

ニ付スル空襲表ニ因リ焼失セル自轉車一六、〇〇〇其五、リヤカー
七〇五其五、部分品一、一〇〇其五分ト推定セラレ、若クモ需給ナ
混乱セシテ居レルガ、軍事方面ニ在リテハ之が入糸ニ腐心、レテ居ルモ
、如ク、縣ニ於テ確係セル中古車ヲ繞リ、最近各部隊等
、對其五ニ統制組合ニ糾到シ、紀給方ノ陳情執拗ニシテ、
窮餘ノ結果、部隊ノ給品トスル酒、煙草、羊、馬、
、等ヲ擧ヘ、組合幹部ノ欲心ヲ買ハムトスル傾向アリ、又部下
、之ニ不便ナル陳地、糧食部隊ニ在リテハ一日十錢乃至五
、十錢ニテ、強制的ニ借用シ、費用、後修理ヲ怠リ、或ハ、
、放四垂スル等ノ事例ニ、三、四リ之カ有地、元民ハ、軍備用ヲ
、決シトセザル傾向、看取セラル（六、九）

八、其他、不當行為之特異動向

一、軍作業廳、家畜飼料用表、供出要望（長崎）

小倉陸軍兵器補給廠ニ於テ、本年未管下北松浦郡南
田平村ニ集積所設置中ナルカ、之カ敷地トシテ廣汎ナル農
耕地ヲ買収セルモ工事、一部延期、為同村ニ對シ右敷地
ヲ貸與シ從來ノ所有者ハ作者ニ於テ農耕ニ居リタル
處、偶々同廠ニ於テ右集積所ニ關連セル小運送自
營、為概テ百頭ノ轆牛ヲ飼養スヘク計畫之カ飼
料ハ農商省ヨリ、割當困難ナル為軍接收地ニ作付
セラレタル表ヲ以テ充當セキトシ所要見込一二〇石、供出
方ヲ縣ニ申入レリ、縣ニ於テハ農商省ヨリ割當ヲ受ク
ル様一應拒絕セルモ引續キ陳情アリタルヲ以テ右耕地

か同村作付面積ヨリ除外セラレ居ル且事案、緊急性
ヨリ概テ豫想収獲量二〇〇石ノ半量ヲ限度トシテ
供出セシムルヲ考慮中ナルカ現下ノ食糧事情ヨリ甚
案スルトナリ軍自體ニ依ル代替飼料ノ生産ヲ輕視シ
主要食糧ヲ以テ充當セムトスルカ如キハ假令軍用地
ニ於ケル生産物ト雖モ穩當ヲ欲スモノ下ナルヲ認メテ
ル(六一四)

又、之シン機關買犯人ニ對スル軍、不當底贖(佐賀)
佐賀市在任洋服店主業高木某外一名ハ佐賀陸軍
借行社、軍服縫加スル為メ(今中古)之シン機一二臺ヲ
闇價格ニテ買入シ、又佐賀聯隊区、市當局ハ、斡
旋ニ依リ、市内ヨリ五〇臺ヲ供出、的ニ買入シ謝禮名

義ヲ以テ高價ニ買入レ居ル事案ヲテテ所轄署ニ於テ
四月二十三日同人等ヲ引致シ取調ヲ開始シタルニ依ル
聯隊区副官ヨリ電話ヲ以テ「聯隊区ニ於テハ直轄被
服工場用トシテシリン機ヲ購入中ナリ取調中ノ二名ハ
本人ハ知ラヌカ四月一日附ヲ以テ軍属ニ任シ居レルヲ以
テ疑念察得有テ於テ取調カルハ不届ナリ即時釈放
スルニト交渉アリタルヲ以テ同署ニ於テハ翌日憲兵
隊ニ引渡シタルニ約一時間ニシテ釋放セリ(五、七)

(長崎)

3. 海軍施設清員業者檢舉ニ対スル憲兵隊ノ抗議
總官下諫軍部ニ於テハ食糧等不届及取一有
取締ヲ為シタルニ依テ海軍施設部關係工業

請員者タル梅村組外一業者ハ務務獲得ノノ後
トシテ食糧ノ不慮支配ヲ企圖シ存年一月ヨリ五
月迄近ノ間ニ於テ架空人員迄之ニ八四人ヲ作リ主
要食糧九、八〇七石（約七〇石）ヲ奪取セルヲ檢舉
セル加岡人等ハ該工事ノ相當遷延シタルヲ糊塗ス
ル為概テ工事終了ヲ機ニ勞務者ノ減少シタルヲ
懸念察取締之基テ離散シタルモノヲ施設部ニ報
告シタル為所轄憲兵隊長ハ因テ警備署長ヲ訪問
軍緊急ニ事関係者ヲ檢舉スルハ戦力増強ヲ阻
害スルモノトシテ強硬ナル抗議ヲ為シタル加岡署長
ニ於テ右取締ニ各方面共一有取締ニ係ルモノニ
シテ勞務者ノ減少ヲ取締ニ基テ因之ルモノニ係ルモノ

説明シタルニ一應諒解スル所アリ(六、一九)

又、軍證明書ノ乱用事案(福五)

之既部在任某軍司令某係處所收容所雇員岩熊某ハ同收容所勤務曹長某ヲ結婚シテ重洛用トシテ米穀一斗ハ貸與方依頼セシ自家ヨリ十九年産米一斗ヲ携行中警視官ノ取調ヲ受ケルニ至リ同人ハ事案ノ表面化ヲ堪レ右願未ク上司タル庶務主任某中尉ニ報告シタルニ同中尉ハ「軍需品ノ使用スル目的ヲ以テ云々」ノ證明書ヲ交自レ又傍ニ在リタル某少尉ハ「解決出来支場合ハ軍需品ヲ派遣シテ解決シテヤル」ト放言セル為案態ニ翌日雖在部ヲ訪レ前記證明書ヲ提示スル

其ノ下今後呼出シハ軍ノ許可無クテハ出頭セズト不
遜ノ言辭ヲ尋ヒタリ

軍需省明梅倉石開發本部軍人、横暴事例

(靜 記)

縣下伊豆ニ設置セラルタル軍需省明梅倉石開發
本部ニ於テ係軍人ヨリ四月中旬所存宇久須村
長ニ對シ鑛山開發ノ於テ開及後上東ニ必要ナル木
材ノ運場ニ因却シ居レルヲ以テ目下及作付中ノ約
二丁五反ヲ即時刈取リテ實施スルヲ命ジタルカ材出
ハ收獲ヲ一ヶ月後ニ控ヘ獨斷ニテ計立給ヒト答
ヘタルニ同將校ハ現場ニ關係農民ヲ集合セシメ同
様命令ヲ下シ一應承諾ヲ得タルカ同村ニ於テハ現

在焉積之因却スル程度ノ木枝ヲ無ク又急速ナル入荷
ノ見透ヲ無キニ町五反歩ヲ直ニ潰地トスルハ樁暴
ナリトノ聲高ク鑿山側ノ打合セノ結果出来得ル限
見合セルコトニ解決シタリ 又修善寺、松崎間
ニ於テ工事関係専用ハスヲ運轉スルコト、ナリ當初
ハ餘裕アルトキハ一般人ヲモ乗車セシムルコト、ナリ居
リタルニ最近ニ於テハ開發本部ニ於テ承認シタル
者以外ハ何人モ乗車セシメス四月七日修善寺駅
前ニ於テ召集令狀受取トシ為出張ノ際ハ警官
ノ乗車ヲモ拒絶セシ(五、三〇)

6. 軍需関係官ノ瀆職的樁暴事例(京都)
京都市所在日有人造角礫石製造株式會社

八、全國唯一人造磁石之製造工場トシテ軍需省
ヨリノ設備年産約七〇萬噸（價格約九〇萬圓）純
益二萬六千圓）トシテ關係軍需官ノ接待費
二利益金ノ相当部分ノ費消ヲ餘義トシテ居
ル様根ニシテ即チ軍需省某技術大尉ハ毎月
一四、京都府下四工場視察名義ヲ以テ入浴其
都度各工場ハ新費ヲ支辨シ居ルカ本年一月
二六電話ヲ以テ豫メ旅館酒肴ノ用意ヲ命ジ居
テ翌日會社トハ全然無關係トシテ名ヲ伴ヒ入浴
二日召滞在此間會社ハ一十圓ヲ支弁更ニ
同大尉ノ安見ノ別途宿泊費約三百圓ヲ支弁
セシメタリ

尚右實見、會社重後、私電ヲ訪問、第ニ五千
円贈、心貴社来年度、生産額増加運動中
石炭ノ増配ニ付申取計、ト申入レタルヤ、聞、リ

久 軍関係ノ飲食店ノ独占化ノ影響(表知)

豊橋市所在大崎海軍航空隊ニ於テ、附近飲食店ノ利用範圍ヲ擴張シ、ア、カ、今更ニ元水産試験場建物ヲ借受テ指定食費誌ニ管外酒保ノ看板ヲ掲、等、下七段以上ニ利用セシメ出入將校ノ内ニ兵ヲシテ農家ヲ雇、訪、鶏卵、青果物等ヲ買、漁ヲシ、私、病、象、駱、カ、ヲ、漁、シ、居、ル、方、ニ食、テ、海、軍、供、給、部、ニ、指、定、一、般、ノ、利、用、ヲ、制、約、各、種、物、資、ヲ、持、込、ニ、依、リ、飲、食、店、ノ、陸、軍、側、ニ、於、テ

七之ニ対抗スルカ如ク借行社支所名下ニ社会
兼娯楽場ヲ獲得スルヲ名古屋師團經理部
主計將校ハ同市内有数旅館ニテ所ヲ檢分
目下經營主ヲ軍屬ト其等ノ好條件ヲ求メ諸
物資付委讓方交渉中ナリ

八、空襲下制服軍人、特異動向（埼玉）

自稱陸軍燃料廠勤務主計少尉瀨野某ハ
四月十四日未明帝都、空襲ニ際シ制服着用九
号國道戸田橋附近ニ於テ海軍省ノ自動車ヲ
捉ヘ「帝都救護」ヲ為埼玉縣ニ會報ヲ持ッテ
来ルカヲ偵見セシト乗用シ更ニ附近某軍需工場
カソリン一罐ヲ持ッ来テ清掃用自動車ヲ徵用

スルト稱レ之ニ從ハシメ埼玉縣廳ニ至リ内政部長ニ対
シテ東京ハ此所前職ヲ々部外ハ全滅外罹災者數百
萬ニ上ルカヲ埼玉縣ヨリ取扱ヘス應急食糧衛生
班負ヲ出シテ世々ト救護方要求セルニ縣ニ於
テ命令系統ヲ絶シタルニ上命令ヲ奉タノ知ハヤク
日存人トシテ人ヲ救フ為ニ来タルト申立テタルヲ以テ
之ヲ拒絶シタルニ上被害ノ場合ノ處置ニ出素テ
知事ヲ遊覧察部長ニ要ヲ又参謀長ニ會フ知
事ヲ遊覧察部長ニ要シテ上稱レ日即憤レテ退
去セリ(四一七)

9. 陸軍航空本部負ノ教唆ニ係ル軍施設工事場ノ
食糧不足及受取(山口)

陸軍航空補給廠高野支廠之在りてハ一厚狹部厚
東村之航空機用爆彈ノ分散檢點ノ計畫ニ當テ
十一月以來勞務者約二五〇〇名ヲ使用シ突如工事
ノ實施中ハ加同工事請負者ニ在リテハ監督官々
ハ航空本部經理部或田建校大尉ノ從屬ニ受テ
勞務者ノ浮動性ヲ利用シ他人ノ食糧購入切符
ノ使用、轉出證明書、製造等ノ方法ニ依リ之々
月間之更リ迄之八〇〇名ノ航空人員ヲ作リ飯糰
一九〇石其地ヲ不山麥配ニ居リ之々ヲ檢査監督
官ノ更迭ヲ見タリ(三二六)

10.

軍工二廠ノ食糧品不山麥配(石川)
之川航空工廠ノ分廠也陸軍航空工廠金澤

工場所屬陸軍主計中尉峰岸某「本年一月工
員給食用」トシテ鹿兒島縣東島村小野濱漁
業倉ヨリ「カ」鱈等六〇〇〇貫ヲ系統採買ヲ通
セテ直接買付ヲ為シ輸送ニ當リテハ輸送費カ
行使セルヲ又發見所給會社ニ引取リシメタリ
一方本年二月河北郡深谷温泉石屋旅館、
一部ヲ療養部トシテ借受テ止居者平均九名
位ナルトシテ此岸中尉、準世帯トシテ九名、米
ヲ受配シ四月十五日迄二石五斗餘新米ヲ得タリ
又發見セシ

保發第三八號

昭和二十年九月十日

內務省警保局保安課長

各地方總監府第一部長殿
警視廳特高部長殿
警視廳官房主事殿
大阪府治安部長殿
各廳府縣警察部長殿

思想結社解散ニ関スル件

左記ノ通思想結社ノ解散ニ
及通知候也

記

結社ノ名稱	主幹者ノ氏名	事務所ノ所在地	解散年月日
瑞穂俱樂部	湯原惣助	東京都港区深沢町三三九小林方	昭和二十年八月十八日
大日本同志會	松本徳明	東京都芝区高輪南町三八	昭和二十一年八月十七日
心まよとむす会	佐々井一晁	東京都黄谷区平川野新町四七七	昭和二十一年八月十五日
葦牙寮	幡掛正浩	東京都黄谷区金王町三六	昭和二十一年八月十五日
護國聯盟	小林省三郎		昭和二十一年八月十五日
祖道會	山中伊平	東京都世田谷区上馬町三八九一	昭和二十一年八月十五日
勤皇護國會	柳所茂道		昭和二十一年八月二十日
直心道場	大森有聲	東京都黄谷区音谷一丁九七九	昭和二十一年八月二十五日
勤皇産業團	野田南藏	東京都芝区田村町二百觀光ビル	昭和二十一年八月二十五日
世界皇化會	常岡瀧雄	東京都板橋区下石神井二二三二	昭和二十一年八月二十五日



南 所 塾	定 野 清 征	東 京 都 赤 坂 区 青 山 町 三 六	昭 和 三 十 年 八 月 三 六 日
國 粹 同 盟	筵 川 良 一	東 京 都 京 橋 区 鏡 屋 七 一	昭 和 三 十 年 八 月 三 十 日
國 龍 會	萬 生 能 久	東 京 都 麹 町 区 水 町 三 八 六	昭 和 三 十 年 八 月 三 十 日
御 植 塾	白 井 為 雄	東 京 都 港 区 新 澤 町 三 五	昭 和 三 十 年 八 月 三 十 日
鷗 鳴 莊	摺 連 南	東 京 都 港 区 水 町 七 五	昭 和 三 十 年 八 月 三 十 日
大 直 會	四 王 天 進 孝	東 京 都 麹 町 区 麴 町 一 八	昭 和 三 十 年 八 月 三 十 日
大 東 亞 青 島 同 盟	松 木 良 勝	東 京 都 港 区 水 町 一 五 九	昭 和 三 十 年 八 月 三 十 日
新 日 本 同 志 會	高 廣 三 郎	東 京 都 麹 町 区 大 手 町 三 三 路 三 六	昭 和 三 十 年 八 月 三 十 日
天 南 打 南 塾 公 滿 井	佐 吉	東 京 都 港 区 新 澤 町 一 八 三	昭 和 三 十 年 八 月 三 十 日
國 際 政 經 學 會 增 田	正 雄	東 京 都 麹 町 区 水 町 三 三 路 七 由	昭 和 三 十 年 八 月 三 十 日

皇民會	丹羽 立郎	東京都港谷区美町四四	昭和二十一年八月五日
國際反共聯盟	井田 啓禰	東京都港谷区白金台一八一	昭和二十一年八月五日
天行會	磯山 秀三	東京都港谷区高松三三	昭和二十一年八月五日
戰時對共研究會	川原 信一郎	東京都港谷区永田町二八六	昭和二十一年八月五日
國體擁護球會	入江 禎矩	東京都港谷区田村町二八樓田錦	昭和二十一年八月五日
萬民翼贊同志會	内田 正之		昭和二十一年八月五日
世界思想研究所	小林 五郎	東京都港谷区田園調布二八三六	昭和二十一年八月五日
明倫會聯合會	石崎 伸三郎	東京都港谷区丸の内一六海上ビル	昭和二十一年八月五日
東亞協會	小幡 博望	東京都港谷区銀座西八一七	昭和二十一年九月四日
天國打南期會	沖本 早三	東京都港谷区東坂町九六	昭和二十一年九月五日
東武會	永島 重生	東京都港谷区田村町四一六	昭和二十一年九月五日